

親子ではじめる

親子で習慣付ける

夢を実現するための

家庭学習のすすめ

～家庭学習の手引き～ (令和6年度版)



苫小牧市立拓勇小学校

« 目 次 »

◎ **だれが家庭学習の習慣を付けるの**

家庭学習は、夢の実現に向けた親子の取組の一つです。

学校は、家庭学習の習慣付けをサポートします。 · · · 1

◎ **なぜ家庭学習をするの**

家庭学習を通してこんな子どもと一緒に育てましょう。 · · · 2

◎ **いつ・どこで家庭学習をしたらいいの**

家庭学習に取り組むための準備 · · · 3

◎ **何を・どのように家庭学習をするの**

Let's start 家庭学習 · · · 4~7

学年の家庭学習について · · · 8

家庭学習は、夢の実現に向けた親子の取組の一つです。

ご家庭では、お子さんの健やかな成長と確かな自立を目指して、起床・就寝時刻、ゲームやスマート・インターネット等についてのルールを決めたり、それらを守らせたりしていることでしょう。家庭学習もその一環で、お子さんの夢の実現に向けた親子の取組の一つです。



学校は、家庭学習の習慣付けの
サポートをします。

家庭学習の習慣を付けるために、学校は、以下のようなサポートをしていきます。

「家庭学習の手引き」の配付

家庭学習に取り組みやすくなるように、意義や具体的な内容をお伝えします。年度初めに配付しますが、いつでもご確認いただけるように、ホームページにも掲載しています。ご活用ください。

宿題

家で勉強をするきっかけとして、宿題を出します。家庭学習の助走として、あるいはお子さんの定着度を測るものさしとしてご活用ください。



家庭学習チェック・励まし

家庭学習チェックも、家で勉強をするきっかけとして行います。また、家庭学習の量や内容について、よいところや改善すべきところを伝え、改善を図れるように指導したり意欲の喚起を図ったりすることもあります。

家庭学習向上週間の実施

年2回、学校全体としてどのくらい家庭学習が習慣化されているのかを確かめる機会として実施しています。忙しくてなかなかじっくり見てあげられないというご家庭も、この週間だけでもお子さんの家庭学習についてチェックしましょう。

家庭学習の例示

どんな家庭学習をしたらよいのか、他の人はどんな家庭学習をしているのか、参考にしていただけるよう、玄関ホールの掲示板とホームページに、家庭学習ノートを例示しています。

家庭学習を通して、こんな子どもと一緒に育てましょう。



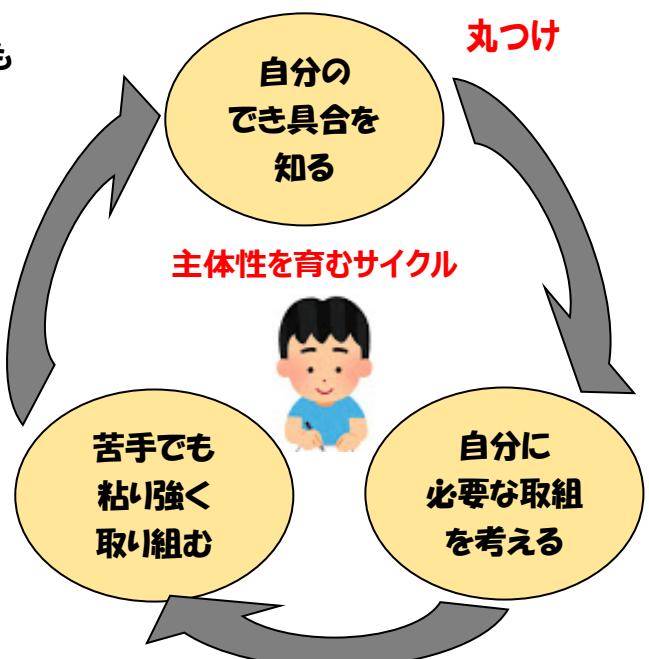
小学校の学習は、将来、子どもたちが社会人として自立するための基礎となる大切なものです。子どもたちが抱く夢の中には、学歴や資格が必要な場合もあるでしょう。道半ばで方向転換をせざる得ない場合も出てくるでしょう。この予測困難な現代をよりよく生きるために、学力とともに、主体的に取り組む態度や習慣を身に付けていくことが肝要です。

○ 主体的に取り組む態度や習慣を身に付けた子ども

「主体的に取り組む態度や習慣」とは、自分がどのくらいできているか、自分の得意、不得手を知り、今の自分に必要な取組は何かを考え、苦手なことにも粘り強く取り組もうとする態度やその継続をいいます。

学校でも、自分の学びを振り返る場面を設定したり、次にどうしたいかを考えさせたりする取組を取り入れたりしながら授業を進めています。

家庭学習でも、自分の出来具合や得意・不得手を知るために丸付けを必ず行い、自分に必要な取組を考えて取り組むようにしたいものです。そして、毎日机に向かう習慣を付けることが大切です。



○ 基礎的・基本的な学習内容を身に付けた子ども

基礎的・基本的な学習内容とは、大まかに言って、学校で学習する内容（教科書に載っている内容）のことです。特に、次のような学習内容は学年間でつながりをもっているので、学習した学年で確実に身に付けておきましょう。確実に身に付けるためには、繰り返し練習することが大切です。粘り強く取り組み、定着を図ることが大切です。



- 教科書に出てる程度の文章をすらすら読み、理解すること。
- 教科書に出てる漢字を読んだり、書いたりすること。
- 教科書に出てる程度の算数の問題を解くこと。

○ 自ら意欲的に学ぼうとする子ども

主体的に学び、基礎的・基本的な学習内容が定着してくると、子どもたちは自分の学び方に手ごたえを感じ、学びに楽しさを覚えます。その楽しさが積み重なることで、学習に対してより意欲的に取り組むようになるでしょう。家庭学習は、その鍵となる大切な取組です。

家庭学習に取り組むための準備



① 基本的な生活習慣を確かめ、家庭学習の時間帯を決めましょう。

基本的な生活習慣を確かめる

～早寝・早起き・朝ごはん～

起床の目安～1時間目開始の2時間前

就寝の目安～低学年：8時半

　中学年：9時

　高学年：9時半

朝ごはん～脳の働きを活発にするためにバランスの良い食事を心がけましょう。

家庭学習の時間帯を決める

少年団や習い事、おうちの方の帰宅時刻などによって、それぞれの家庭で一日のスケジュールが異なります。各家庭の生活スタイルに合わせて、家庭学習の時間帯を決めましょう。習慣を付けるには、できるだけ時間の変更のない方が好ましいです。

« 自分の一日のスケジュール »

- ① 起床・就寝時刻を確かめ、睡眠時間に色をぬる。
- ② 親子で相談して決めた家庭学習の時間帯に色をぬる。
- ③ ほかにも親子で約束したいこと(ユーチューブの視聴時間帯、スマホ、ゲーム使用時間帯など)があれば、色をぬりたしてみましょう。

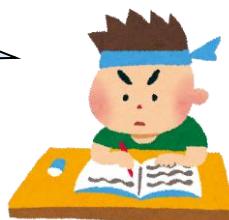
親子で
相談しましょう。



午前	午後	午前																						
6	7	8	9	10	11	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	0	1	2	3	4	5	6

② 学習に集中できる環境づくりをしましょう。

勉強するときは、
テレビやゲームを
消しましょう。



周りを片付けて、余計
な物を置かないように
しましょう。

辞書や教科書、ドリルなど
必要な物を準備してから
始めましょう。

勉強している最中に、兄弟が遊んでいると気が散りやすくなります。時間帯をそろえる、兄弟が勉強している間は読書するなど、家庭のルールを決めるとよいかもしれません。

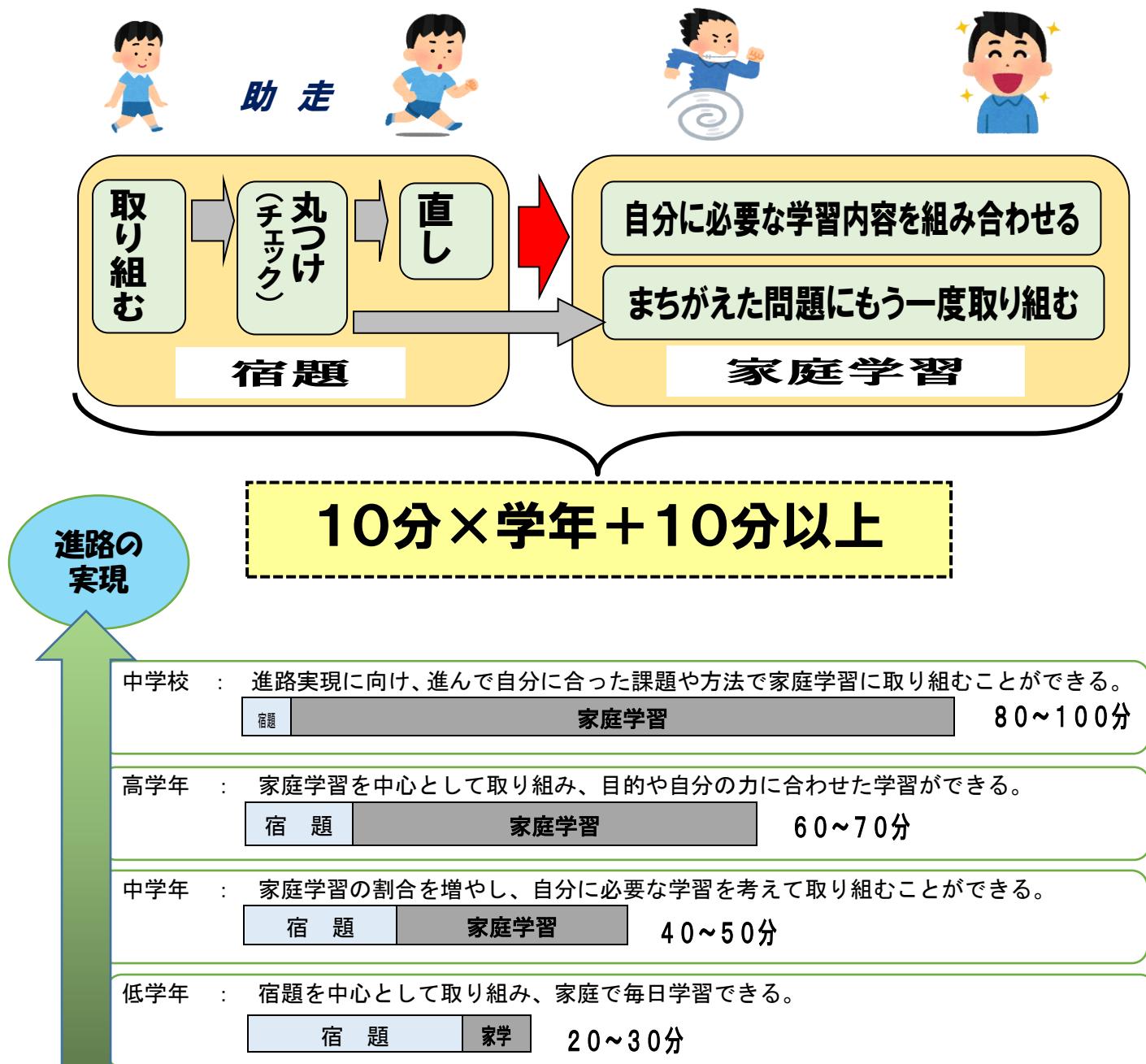
Let's start 家庭学習

子どもに「家庭学習、やりなさい。」と言うだけでは、家庭学習に取り組んだり、習慣を付けたりすることはできません。ゆくゆくは子ども自身で取り組んでいくように、段階を追っていくことが大切です。お子さんの家庭学習の習慣がどの程度付いたかを見ながら、徐々におうちの方のサポートを減らしたり、必要に応じて一段階戻ったりして、定着を図りましょう。

① まずは宿題から始めましょう。

まずは宿題から始めましょう。宿題は家庭学習への助走であり、どこができるいて、どこができるていないかをチェックするものです。宿題が終わったら、必ず丸つけをし、間違えたところは家庭学習で取り組みましょう。それから自分に必要な学習を考えて取り組みます。自分に必要な学習については、右のページの表を参考にしてみてください。

学習時間は、宿題と家庭学習を合わせて、10分×学年+10分以上が目安です。



② 次に家庭学習ノートを開きましょう。

宿題が終わったら、家庭学習本番です。まずは、家庭学習ノートを開きましょう。



- ① 毎日の自分の努力が積み重なっていく実感をもたせるために、**必ず日付**を書きましょう。また、学年相応の学習量に取り組む意識をもたせるために、**取り組んだ時間**を書きます。「始めた時刻～終わった時刻」でも、「〇分間」という書き方でも構いません。低学年は時間の計算ができないので、おうちの方が算出する必要があります。
- ② 日付、取り組んだ時間を書いたら、自分に必要な学習に取り組みます。いきなり書き出すのではなく、「今日、自分が取り組もうと思っているもの」「頑張ろうと思っていること」(課題)をこのノートに書き出してから始めるのもよいでしょう。取り組み終わった後に、ふりかえりを書くのも主体性を育てるのに効果的です。
- ③ 家庭学習ノートは、学習の履歴を残すためにも、**毎日1ページは取り組み**ましょう。もちろん2ページ以上取り組んでも構いません。自分の学びに必要だと考える場合には、家庭学習ノートに**加えて、問題集に取り組んでもよい**でしょう。その場合には、宿題の場合と同じく、「丸つけ→直し→間違えたものをもう一回」を忘れずに取り組みたいものです。

« 自分に必要な学習の例 »

国語	算数	社会・理科・総合・生活
<ul style="list-style-type: none">・ひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字の練習・視写（文章をノートに写す）・言葉の意味調べ・日記・音読・詩の暗唱・テストの問題をもう一度解く・今日学習したことの感想文・本の感想や紹介文 など	<ul style="list-style-type: none">・教科書や算数ドリルの復習・計算練習・自分で作った問題を解く・生活の中から算数を見付ける（三角形の物・「m」などの単位が使われているもの、床の面積 など）・テストの問題をもう一度解く・プリントのまちがえたところの解き直し・公式をまとめる など	<ul style="list-style-type: none">・地図記号、地名、歴史上の人物・出来事などをおぼえる・学習したことで、もっと知りたいことを資料などで調べる・授業で学習したことのまとめ・新聞記事を読んで感想を書く・テストの問題をもう一度解く・大切な言葉をまとめる・実験をまとめる など

他にも… ○新聞や読み物の感想をまとめてみましょう。

○国語辞典、漢字辞典、その他の図鑑を身近に置いて調べてみましょう。

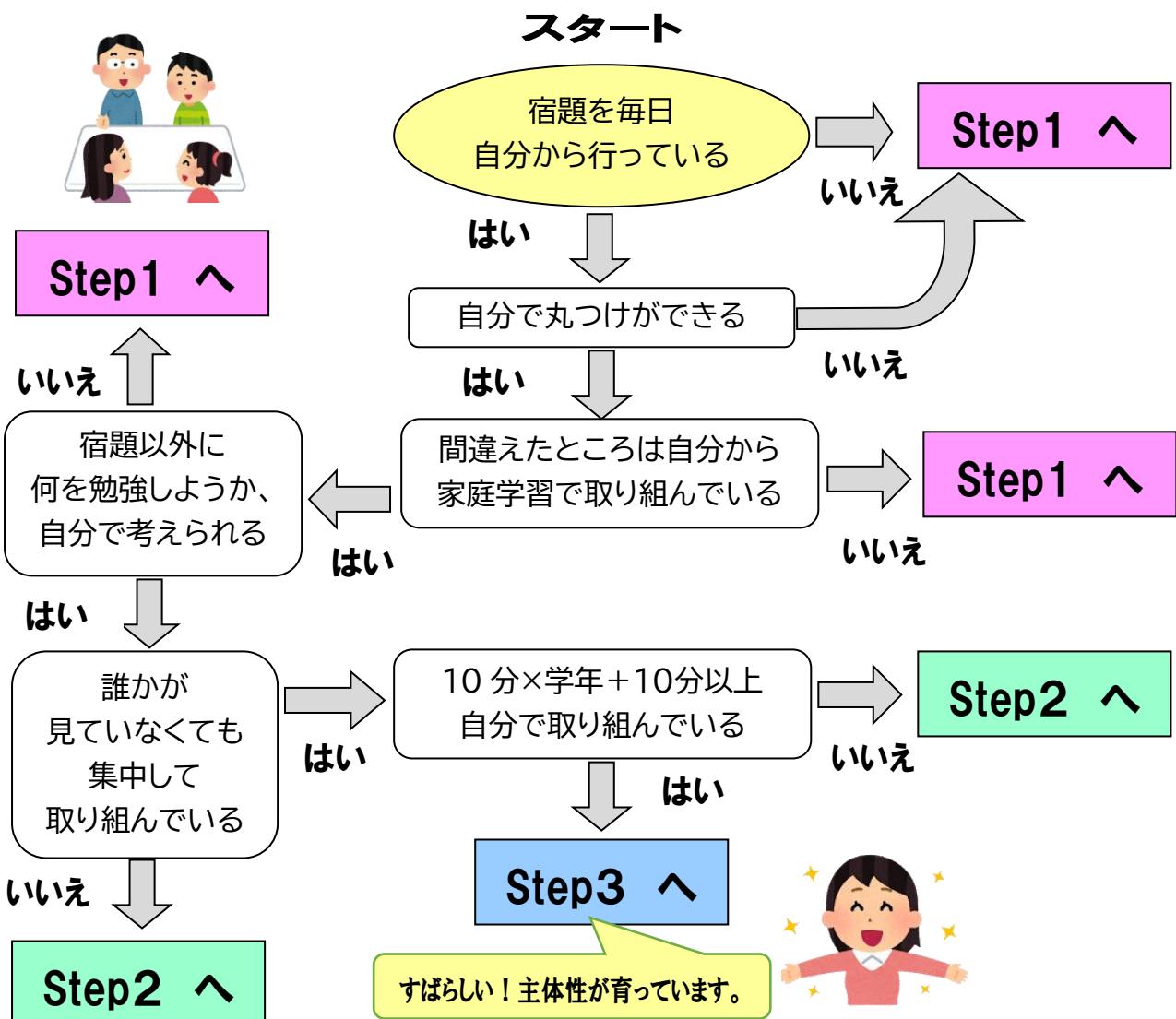
○日本地図、世界地図、地球儀を身近に置いて調べてみましょう。

○できる範囲で、新聞に目を通してみましょう。

○自然や生き物とふれあい、観察してみましょう。

③ お子さんの習慣の定着度に応じてサポートしましょう。

お子さんの家庭学習習慣の定着度チェック



子どもの主体性とおうちの方のサポートの関係



子どもの主体性

お家の方のサポート

Step 1

Step 2

Step 3

(目安の学年)

低学年

中学年

高学年

Step 1

…家庭学習の習慣をつくる段階

- ① 家庭で話し合った時間帯に机に向かうことから始めましょう。始める時刻をノートに書き、学習時間を意識させましょう。
- ② おうちの方は、お子さんの宿題の様子を見て、丸つけをします。まちがえたところを直させたり、できているところをほめたりします。また、分からぬところは教えてあげましょう。
- ③ 宿題が終わったら、家庭学習です。自分で何に取り組むか決められない段階なので、相談にのり、決める手伝いをします。はじめはノートをどう使っていいか分からない場合が多いので、問題を書いてあげるのも方法の一つです。
- ④ 家庭学習で取り組んだものに目を通し、丸をつけたり、間違えたところを直させたりします。よいところや頑張ったところを見付けて伝えるとよいでしょう。
- ⑤ 学習の終わった時刻をノートに書き、何分取り組んだか確かめます。低学年は時間の計算ができないので、おうちの方が書くとよいでしょう。

Step 2

…少しずつ子どもの主体性を伸ばす段階

- ① この段階は、自分で集中して取り組んだり、家庭学習の内容を自分で考えたりできるようにして、親のサポートを徐々に減らしていきます。しかし、子ども任せにすると、楽な方に流されやすい時もあります。お子さんの様子から、必要に応じて Step 1 に戻ることもあります。
- ② 丸つけを子ども自身で行えるように、はじめはおうちの方が丸つけの様子を見てください。おうちの方に言われなくても、間違いを直したり、家庭学習で取り組んだりしていたら、大いにほめてあげてください。丸つけを段階的に子どもにさせるようにしていき、自分で全部させるようになったとしても、適切に行っているかを時々確かめましょう。
- ③ おうちの方に問題を書いてもらっていた子は、段階的に自分で書くところを増やしていきます。
(例1) おうちの方が書く日と、それをまねして自分で取り組む日をつくる。
(例2) おうちの方が書く部分と、自分で書くコーナーをつくる。
- ④ 宿題も家庭学習も、取り組んだものには必ず目を通して、よいところや頑張ったところを見付けて伝えるとよいでしょう。また、分からぬところは教えてあげてください。
- ⑤ 学習に取り組み始めた時刻と、終わった時刻が書いてあるかを確かめ、それが 10 分×学年 + 10 分に達しているかを確認します。

Step 3

…子どもの主体性を見守り、支える段階

- ① 自分で必要な学習を考え、自分で集中して学年相当の時間を取り組む段階です。子どもに任せてよい部分も多くなりますが、お子さんの様子から、必要に応じて Step 1 や 2 に戻ることもあります。取組については、短時間でも必ず目を通してましょう。そして、いいところや頑張りを見付けて伝えるようにするとよいでしょう。また、分からぬところは教えてあげましょう。

どの段階でも、

- ◎ 毎日、目を通す
- ◎ ほめる・励ます・アドバイス
- ◎ わからないところは教える
- ◎ 家庭学習向上週間の時は、いつもより多めにサポート

1 ねんせいのかていがくしゅうについて

いえのひとといっしょによみましょう。



【もくひょう】

- ①いえにかえったら、すぐにしゅくだいをしましょう。
- ②まいにち **20 ぶんいじょう** は、がんばってがくしゅうしましょう。
やすみのひやなつやすみなどには、もっとがんばってみましょう。

【かていがくしゅうのまえにすること】

- ①がっこうからのおてがみは、おうちのひとにわたしましたか。
- ②おべんきょうするばしょは、かたづいていますか。
- ③しせいやえんぴつのもちかたは、ただしいですか。
- ④テレビはけしましたか。

ほかにも、いろいろながくしゅうないようをくふうしてみましょう。

～かていがくしゅうのとりくみ（れい）～

がくしゅうないよう	やりかた
①もじのれんしゅう (ひらがな、かたかな、かんじ)	○おてほんのじのかたちをよくみて ていねいに こく かきます。「とめる」「はねる」「はらう」にきをつけてかきましょう。
②ししや (ぶんしょうをノートにうつす)	○こくごのきょうかしょのものがたりやせつめいぶんをノートにうつしましょう。「、」「。」や「は」「を」「へ」にきをつけてかきましょう。
③さんすうのもんだい	○プリントやドリルのもんだいをよく よん でやりましょう。

1ねんせいは、しばらくのあいだは プリントのしゅくだいになります。じきをみながら、しゅくだいとかていがくしゅうのりょうほうにきりかえていきましょう。

しゅくだいやかていがくしゅうは、おわったあとに おうちのひとにみせて、まるをつけてもらったり、まちがえたところを やりなおしたりしましょう。

【かていがくしゅうのあとにすること】

- ①じかんわりをたしかめて、あすのじゅんびをしましょう。
(きょうかしょ、ノートはじゅんびしましたか?)
- ②えんぴつは けずりましたか? けしゴムは きれいですか?
- ③ふではこのなかも、たしかめましょう。
- ④しゅくだいは、れんらくぶくろにいれましたか?

2年生のかてい学しゅうについて

いえの人といっしょによみましょう。

【目ひょう】

- ①いえにかえったら、すぐにしゅくだいをしましょう。
- ②まい日 **30ふんい上** は、がんばって学しゅうしましょう。
休みの日やなつ休みなどには、もっとがんばってみましょう。



【かてい学しゅうのまえにすること】

- ①学校からのお手がみは、おうちの人にわたしましたか。
- ②おべんきょうするばしょは、かたづいていますか。
- ③しせいやえんぴつのもちかたは、正しいですか。
- ④テレビはけしましたか。

ほかにも、いろいろな学しゅうないようを、くふうしてみましょう。

～かてい学しゅうの とりくみ (れい)～

がくしゅうないよう	やりかた
①かん字のれんしゅう	○プリントやドリルの学しゅうをします。または、かん字をノート1ページにかきます。 ○よみかたやおくりがなもたしかめましょう。 ○ていねいにかきましょう。
②にっき	○はなしたこと、あったことを気もちを入れて文であらわしましょう。 ○できる人は、じぶんでつくったおはなしを文であらわしましょう。
③さんすうのもんだい	○プリントやドリルの学しゅうをします。 ○やりおわったら、まちがえていないか見なおしをして、まちがえをおししましょう。

しゅくだいのほかに、かてい学しゅう、音どくにもとりくむようにしましょう。

しゅくだいやかてい学しゅうは、おわったあとにおうちの人に見せて、まるをつけてもらったり、まちがえたところをやりなおしたりしましょう。

【かてい学しゅうのあとにすること】

- ①じかんわりをたしかめて、あしたのじゅんびをしましょう。
(きょうかしょ、ノートはじゅんびしましたか?)
- ②えんぴつはけずりましたか? けしゴムはきれいですか?
- ③ふではこの中も、たしかめましょう。
- ④しゅくだいは、れんらくぶくろにいれましたか?

3年生の家庭学習について

家人といっしょに読みましょう。

【目次】

- ①家に帰ったら、すぐにしゅくだいをしましょう。
- ②毎日40分以上は、がんばって学習しましょう。
休みの日や夏休みなどには、もっとがんばってみましょう。
- ③しゅくだいい外に、自分にひつのような学習を考えて行いましょう。



【家庭学習の前にすること】

- ①学校からのお手紙は、家人にわたしましたか。
- ②べん強する場所は、かたづいていますか。
- ③しせいやえんぴつの持ち方は、正しいですか。
- ④テレビはけしましたか。

ほかにも、いろいろな学習ないようを、くふうしてみましょう。

～かてい学習のとりくみ（れい）～

学習ないよう	やりかた
①かん字のれん習	○かん字ドリルを見ながら、一文字ずつていねいに、正かくにれん習する。
②算数のもんだい	○プリントや算数ドリルをやってみましょう。 ○教科書のれん習もんだい、「ほじゅうもんだい」などをノートにやってみる。
③社会・理科など	○教科書の中で、大切なところをノートにうつしたり、まとめたりする。

しゅくだいのほかに、家庭学習もします。

算数のふく習では、もんだいをやつたままにしないで、自分で丸つけをして、まちがえたところはかならずやり直しましょう。

かん字は、はじめのうちは、おうちの人にきょう力してもらい、だんだん自分で丸つけができるようになります。

【家庭学習の後にすること】

- ①時間わりをたしかめて、明日のじゅんびをしましょう。（教科書、ノートなど）
- ②えんぴつはけずりましたか？ けしゴムはきれいですか？
- ③ふではこの中も、たしかめましょう。

4年生の家庭学習について

家人の人といっしょに読みましょう。



【目標】

- ①毎日家庭学習をする習慣を身に付けましょう。
- ②毎日50分以上は、がんばって学習しましょう。
休みの日や夏休みなどには、もっとがんばってみましょう。
- ③宿題以外に、自分に必要な学習を考えて行いましょう。

【家庭学習の前にすること】

- ①勉強する場所は、きれいですか。
- ②正しいしせいになっていますか。
- ③テレビやゲームのスイッチは消しましたか。

他にも、いろいろな学習内ようを、くふうしてみましょう。

～家庭学習の取組（例）～

学習ないよう	やりかた
①漢字の練習	○漢字ドリルを見ながら、一文字ずつていねいに、正かくにれん習する。
②算数の問題	○プリントや算数ドリルをやってみましょう。 ○教科書のれん習問題、「ほじゅうもんだい」などをノートにやってみる。
③社会・理科など	○教科書の中で、大切なところをノートに写したり、まとめたりする。

宿題のほかに、家庭学習もします。

算数のふく習では、問題をやったままにしないで、自分で丸つけをして、まちがえたところはかならずやり直しましょう。

漢字は、自分で丸つけをし、まちがいはかならず直しましょう。

【家庭学習の後にすること】

- ①時間わりをたしかめて、明日のじゅんびをしましょう。（教科書、ノートなど）
- ②えん筆はけずりましたか？ 消しゴムはきれいですか？

5年生の家庭学習について

家人の人といっしょに読みましょう。

【目標】

- ①毎日家庭学習をする習慣をかく実に身に付けましょう。
- ②毎日 **60分以上** は、がんばって学習しましょう。
休みの日や夏休みなどには、もっとがんばってみましょう。
- ③宿題以外にも、家庭学習に取り組みましょう。



【家庭学習の前にすること】

- ①勉強する場所は、きれいですか。
- ②正しいしせいになっていますか。
- ③テレビやゲームのスイッチは消しましたか。

他にも、いろいろな
学習内ようを工夫
してみましょう。

～家庭学習の取組（例）～

学習ないよう	やりかた
①漢字の練習	○漢字ドリルを見ながら、一文字ずつていねいに、読み方と使い方も合わせて正かくに練習しましょう。
②算数の問題	○プリントや算数ドリルをやってみましょう。 ○教科書の練習問題、「補充問題」などをノートにやってみる。 ○大切なことをまとめてみましょう。
③社会・理科など	○教科書の中で、大切なところをノートに写したり、まとめたりする。

宿題のほかに、家庭学習もします。

算数のふく習では、問題をやったままにしないで、自分で丸つけをして、まちがえたところは必ずやり直しましょう。

漢字は、自分で丸つけをし、まちがいは必ず直しましょう。

【家庭学習の後にすること】

- ①時間わりをたしかめて、明日のじゅんびをしましょう。（教科書、ノートなど）
- ②えん筆はけずりましたか？ 消しゴムはきれいですか？

6年生の家庭学習について

家人の人といっしょに読みましょう。

【目標】

- ①毎日家庭学習をする習慣を確実に身に付けましょう。
- ②毎日 **70分以上** は、がんばって学習しましょう。
休みの日や夏休みなどには、もっとがんばってみましょう。
- ③宿題以外にも、家庭学習に取り組みましょう。



【家庭学習の前にすること】

- ①勉強する場所は、きれいですか。
- ②正しいしせいになっていますか。
- ③テレビやゲームのスイッチは消しましたか。

他にも、いろいろな
学習内容を工夫して
みましょう。

～家庭学習の取組（例）～

学習ないよう	やりかた
①漢字の練習	<ul style="list-style-type: none">○漢字ドリルを見ながら、一文字ずつていねいに、読み方と使い方も合わせて正確に練習しましょう。○漢字を使って熟語をつくってみましょう。
②算数の問題	<ul style="list-style-type: none">○プリントや算数ドリルをやってみましょう。○教科書の練習問題、「補充問題」などをノートにやってみる。○大切なことをまとめてみましょう。
③社会・理科など	<ul style="list-style-type: none">○教科書の中で、大切なところをノートに写したり、まとめたりする。○実験をまとめる。

宿題のほかに、家庭学習もします。

算数のふく習では、問題をやったままにしないで、自分で丸つけをして、まちがえたところは必ずやり直しましょう。

漢字は、自分で丸つけをし、まちがいは必ず直しましょう。

【家庭学習の後にすること】

- ①時間わりを確かめて、明日の準備をしましょう。（教科書、ノートなど）
- ②えん筆はけずりましたか？ 消しゴムはきれいですか？